

かながわ農業活性化指針の施策の実施状況について

施策の方向 1 生産性の向上と担い手の育成・確保

(1) 多様な担い手の育成・確保及び経営発展段階に応じた支援

ア 多様な担い手の育成・確保

地域の農業生産や必要な農地を確保するため、新規就農者の確保・定着の取組を推進するとともに、女性の農業進出や小規模経営体の農業生産の継続、農福連携の取組等を支援する。

<令和7年度実績>

- ・新規就農者数 105 人、新規参入法人数 2 法人
- ・新規就農希望者等に対し面談等による就農相談（相談者数 187 人、16 法人）
- ・女性農業者が行う、経営発展に必要な新商品の試作や機械等の導入、オリジナルロゴのデザイン委託に対する支援（10 件）
- ・【新】新たに農福連携に取り組もうとする農業者に対し、農福連携の内容を学ぶ研修会（1 回・参加者 19 人）や先駆的な農業者への見学会（1 回・参加者 27 人）を開催した。
- ・【新】農福連携によって生産した農産物の販売に係るブランディングについて検討した。



農福連携を学ぶ研修会の様子



女性農業者の経営発展支援（軽量チェーンソー）

イ 経営発展段階に応じた支援

農業生産の中核を担う経営感覚に優れた経営体を確保するため、就農から経営発展段階に応じた研修会や巡回指導を行う。

<令和7年度実績>

- ・新規就農者を対象とした基礎セミナーの開催（受講者 90 人、巡回指導延べ 627 回、集合研修 45 回）
- ・基礎セミナー修了者を対象とした経営発展のためのステップアップセミナーの開催（集合研修 14 回）
- ・かながわ農業版 M B A 研修の開催（12 日間・1 回、15 人修了）



かながわ農業版 M B A 研修

ウ 生産性の向上などを図るために必要な機械・施設等の整備促進
県産農産物の生産の拡大や生産性の向上のため、生産施設等の整備を支援する。

＜令和7年度実績＞

- ・【新】経営のステップアップにつながる新規アイデアの導入や施設等整備に対して補助
(複合環境制御装置・培養液の冷却装置・温室等 6件)



高温対策のためのトマトの培養液冷却装置



葉ネギ周年栽培のための環境制御型ハウス

(2) 農畜産物の生産の拡大や産地の強化に向けた支援

ア スマート農業の推進（耕種）

地域の優れた生産技術を基に、本県農業に適したスマート農業を展開し、生産の拡大や産地の強化に取り組む。

＜令和7年度実績＞

- ・スマート技術の導入経営体数（耕種）313 経営体※
※環境モニタリング等機器、自動型・直進アシスト付機械、ドローンの導入経営体数（ドローンは作業委託者を含み、その他の機器導入との重複あり）。
- ・スマート機器の導入に対する補助（温室の環境制御装置、直進アシストトラクター、ドローン等 19 件）

イ スマート農業の推進（畜産）

生産性の向上を図るため、畜産分野におけるスマート技術等の導入を支援する。

＜令和7年度実績＞

- ・スマート技術の導入経営体数（畜産）65 経営体
- ・スマート技術導入の実績や効果を分析し、導入意向のある畜産農家に対して経営規模等に見合った機器等を紹介

ウ 生産資材価格の高騰対策など経営安定に向けた支援

経営安定のために、燃油や肥料、飼料等の価格高騰に対して支援する。また、飼料生産基盤を強化するとともに、県産畜産物の生産性や収益性の向上を図る。

＜令和 7 年度実績＞

- ・燃油の価格高騰対策として、施設園芸セーフティネット構築事業への加入促進を図るため、生産者積立金に対する補助（基準価格からの高騰分の 1 / 4、農業者負担分の 1 / 2 以内 18 団体の 185 名）
- ・畜産農家の飼料購入費の負担増に対する補助（補助率 1 / 2 以内 酪農家 92 件、肉用牛飼養農家 30 件）

(3) 新品種の育成や新技術の開発及び生産現場への普及

ア 新品種の育成と普及

かながわ特産品の開発等により地域農業を活性化するため、県オリジナル品種の育成や普及に取り組む。

＜令和 7 年度実績＞

- ・トマト品種「湘南ポモロンショコラ」のニーズと販売に適した荷姿、出荷先を明らかにし、生産者向けのリーフレットを作成（県ホームページで公開中）
- ・イチゴ品種「かなこまち」の安定生産技術を普及するために、栽培上のポイントや流通・貯蔵特性などを取りまとめた「かなこまち栽培マニュアル」を作成（県ホームページで公開中）



「湘南ポモロンショコラ」（手前）と
ポモロンシリーズ（奥左右）



イチゴ品種「かなこまち」

イ 高品質・安定生産技術等の開発と普及

ロボット等による省力・軽労化技術など、本県に適した技術の開発と普及に取り組む。

＜令和 7 年度実績＞

- ・県西地域に多い傾斜地のカンキツ園でドローンによる農薬散布技術の確立
- ・【新】ICTを活用した、熟練農業者の高度な技術「匠の技」の見える化及び学習システムの構築
- ・OPU（経膈採卵）を用いた効率的な後継牛確保や、多産系種豚を利用した改良型種豚の頒布等による生産基盤の強化



傾斜地に対応したドローンによる農薬散布



「匠の技」を学べるコンテンツ
(キュウリの摘葉技術)

(4) 畜産経営の体質強化に向けた総合的な支援

持続可能な畜産業を実現するため、生産性や収益性の向上、生産態勢の構築、都市環境との調和等に取り組む。

＜令和7年度実績＞

- ・国産飼料を活用するために必要な経費に対する支援（1事業者）
- ・水田を活用した飼料確保に対する奨励金（8事業者）
- ・【新】飼料を活用した耕畜連携の体制を構築するため、子実トウモロコシの栽培展示ほの設置
- ・【新】耕畜連携によって生産された農産物供給のための国内先進事例調査・経営モデル検討・マーケティング調査の実施
- ・【新】耕畜連携を強化するため良質堆肥生産態勢の構築及びモデル地域における条件整備を支援（研修会開催、堆肥成分分析及び堆肥流通支援26件、堆肥散布機等の整備5地域）
- ・エコフィードマッチングシステムの運営（本掲）



子実トウモロコシ

(5) 農業生産基盤の整備と農地集積の促進及び農地の有効活用

認定農業者等の中核的経営体への農地集積に資するよう、今後の地域農業を見据えた生産基盤の整備を推進する。

＜令和7年度実績＞

- ・農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想を定めている30市町村のうち、29市町で令和7年3月末までに地域計画が策定され、市町村の地域計画策定に向けた取組を支援するとい

- う推進協議会の目的は概ね達成されたことから、担当学会議（1回）、推進協議会（1回）の開催を経て推進協議会を解散
- ・市町村等への農地中間管理機構の事業推進方針等説明（32市町村）の実施
 - ・水路等の付帯工事の実施、土地改良区の設立認可の申請（小田原市千代地区）、及び新規地区の市との打合せや指導、農家との意見交換会（6回、相模原市金原地区）
 - ・広域農道など基幹的な農道の整備（2地区、小田原湯河原線他）
 - ・農業用施設の強靱化のための調査、補修・補強及び改修等の実施（6地区、相模川右岸用水路他）
 - ・荒廃農地の復旧等を行い、担い手に貸し出すことで、農地の集積・集約化を促進（4市1町1村）
 - ・【新】簡易な生産基盤整備を実施し、担い手への農地の集積・集約化を促進（1市）
 - ・【新】大学や企業と連携し、効率的な水管理の可能性等を検証するための実証試験を実施（1地区）
 - ・【新】生産基盤整備と一体となった企業等の参入を促進するための農業参入意向調査（45社）や現地視察の受入れ（3社）を実施
 - ・市町等が事業主体となる生産基盤整備事業の支援（19市町等、農道整備、水路改修等）

整備前



整備後



農業用施設の強靱化のための改修（南足柄市文命用水地区）

復旧前



復旧後



荒廃農地の復旧（小田原市）

(6) 災害等のリスク対策の取組強化

ア 自然災害へのリスク対策

農業用施設の防災・減災対策や農業保険などセーフティネットの加入促進など、災害への備えを進めるとともに、農地・農業用施設に被害が生じた場合は、補助事業等により復旧を支援する。

<令和7年度実績>

- ・農業版事業継続計画（BCP）を神奈川県施設野菜組合連合会及び神奈川県農業経営士協会の会合において周知
- ・神奈川県農業共済組合とともに農業保険制度を周知
- ・基幹的農業用取水施設や水路、取水門等の農業用インフラの防災・減災対策を実施（3地区、鬼柳堰他）
- ・令和6年発生台風10号災害について、市町村に対する農地・農業用施設の災害復旧への技術支援や国の補助事業等による復旧に向けた実施に伴う計画変更等を支援（5市町、農地・農業用施設の復旧）



農道被災状況（伊勢原市善波）



農地被災状況（秦野市菩提）

イ 家畜伝染病発生予防の取組

健康な家畜及び安全な畜産物を生産するため、高病原性鳥インフルエンザなどの家畜伝染病の発生予防やまん延防止、動物用医薬品及び飼料の適切な使用を推進する。

<令和7年度実績>

- ・家畜伝染性疾病の発生予防やまん延防止のための検査・指導を実施（5,817件）
- ・動物用医薬品の流通段階における管理状況及び品質検査を実施（立入検査48件、品質検査2件）
- ・飼料販売業者等を対象とした立入検査を実施（10件）（本掲）

施策の方向 2 新鮮で安全・安心な魅力ある農畜産物の利用拡大

(1) 農畜産物のブランド力の強化や付加価値向上の支援

ア ブランド力向上の取組

県産農畜産物の認知度を高め、利用拡大を図ることにより、県産農畜産物のブランド力を高め、販路拡大を支援する。

<令和7年度実績>

- ・ かながわブランドの認知度 (67.9%)
- ・ かながわブランド新規登録 3 件
- ・ かながわブランドキャラバン等の実施 (11 件)
- ・ かながわ農林水産品マッチング商談会の開催 (1 回) (本掲)
- ・ ホームページ「かなさんの畑」の運営
- ・ 【新】 かながわブランドの認知度向上のためデジタルサイネージや駅貼りポスター等による駅広告等の実施 (3 回)
- ・ 【新】 かながわブランド登録品の生産力増加の向上のために必要な機器等の導入補助の実施 (1 件)
- ・ 【新】 県産品の販路拡大に向けた W E B 物産展の実施 (1 回)



かながわブランド新規登録
藤沢生まれの藤稔



かながわブランド新規登録
芦ノ湖のわかさぎ



かながわブランド新規登録
湘南潮彩レモン



デジタルサイネージや駅貼りポスター等での P R



ECサイトでのWEB物産展の実施

イ 畜産物の出口戦略

県産畜産物の評価を高め、販路拡大につなげるため、流通・販売・消費面からのアプローチによる「出口戦略」を推進する。

＜令和7年度実績＞

- ・販路拡大などの成果があった畜産物のブランド数5件
- ・県内畜産農家に対する理解醸成を図るための小学生向け畜産PR動画を食育・イベント等で活用（本掲）
- ・「かながわ畜産の日」記念イベントや「牛乳の日 in 花菜ガーデン」等のイベントを通じて県内畜産業と県産畜産物をPRし、畜産に関する理解醸成を図る（本掲）



「かながわ畜産の日」記念イベント



牛乳の日イベント in 花菜ガーデン

ウ 6次産業化の取組支援

新たな付加価値を生み出すため、農産加工や観光農業、食品関連事業者との連携等の取組を支援する。

＜令和7年度実績＞

- ・農山漁村発イノベーションサポートセンターの運営委託（電話相談111回、支援対象者の選定6経営体及び専門家派遣33回）
- ・人材育成研修会（講義6回、実習4回）

(2) ニーズの変化等に対応した流通・販売対策の支援

新鮮で安全・安心な県産農畜産物を供給するため、販路拡大や社会情勢の変化に対応した販売促進等に取り組む。

<令和7年度実績>

- ・ かながわ農林水産品マッチング商談会の開催（1回）（再掲）
- ・ 県内畜産農家に対する理解醸成を図るための小学生向け畜産PR動画を食育・イベント等で活用（再掲）
- ・ 「かながわ畜産の日」記念イベントや「牛乳の日 in 花菜ガーデン」等のイベントを通じて県内畜産業と県産畜産物をPRし、畜産に関する理解醸成を図る（再掲）

(3) 農畜産物の安全・安心の推進と食育の推進

ア 農畜産物の安全・安心の確保

農畜産物の安全・安心確保のため、農薬安全対策やGAP、農場HACCPの取組を支援する。

<令和7年度実績>

- ・ GAPの取組の高度化を図るための研修会（1回）の開催
- ・ 農薬管理指導士の認定養成研修（63名受講、52名認定）や、更新研修（256名受講）の開催
- ・ 農場HACCP認証取得済み農場におけるシステム維持・向上のための現地指導・支援（6戸）
- ・ 飼料販売業者等を対象とした立入検査の実施（10件）（再掲）

イ 食育の推進

将来にわたり健康で長生きできる社会の実現のため、県民一人ひとりが食に関する理解を深め、健全な食生活の実践を目指し、取組を推進する。

<令和7年度実績>

- ・ 毎年8月を「かながわ食育月間」と位置づけ、民間と協働して、誰かと一緒に食事をする（共食）の重要性や栄養バランスの良い食事を摂ること等をテーマに、ポスター等の作成・配布を実施
（配布先：県及び県関連団体、市町村、食育を推進する民間団体（スーパーマーケット等）に対し、350部を配布）



かながわ食育月間 ポスター

施策の方向 3 環境に配慮した農業の推進と生産環境の保全

(1) 環境に配慮した農業の推進

環境に配慮した農業を実現するため、有機農業を含む環境保全型農業や未利用資源を活用した農業生産を着実に推進するとともに、省エネ対策等を支援する。

＜令和 7 年度実績＞

- ・「神奈川県環境負荷低減事業活動実施計画認定要領」(令和 5 年 12 月策定)に基づき、19 名の農業者の実施計画を認定
- ・有機農業者のほ場見学会（1 回）、有機農業に関する必要な知識・技術を習得するための研修会（1 回）、消費者の理解促進に向けた有機農業のほ場を見学するツアー（1 回）の開催
- ・環境にやさしい栽培技術と省力化に資する技術を組み合わせたグリーンな栽培体系への転換の支援（2 団体）
- ・エコフィードマッチングシステムの運営（再掲）



消費者が有機農業ほ場を見学するツアー



有機農業者のほ場見学会

(2) 農地等の活用・保全

農地を適正に保全するため、農業生産活動を維持・向上させる地域ぐるみの共同活動への支援や農地の活用を促進する。

＜令和 7 年度実績＞

- ・多面的機能支払事業等を行う活動団体への支援（14 市町、31 団体、7 集落）
- ・かながわ農業サポーターの認定（24 人）や、サポーターへの貸出による荒廃農地の解消（0.9ha）
- ・かながわホームファーマー農園の開設（5 市町、2.7ha）
- ・オレンジホームファーマー農園の開設（2 市町、0.6ha）
- ・団体が行う里地里山の保全活動への支援（9 市町、23 団体）
- ・【新】里地里山保全活動への、大学ボランティアサークルや企業及び都市住民等の参画に対する支援（参加者延べ 62 人）
- ・飼料畑としての活用を踏まえた荒廃農地の解消（2.1ha）



地域ぐるみで実施する水路の一斉清掃



かながわホームファーマー農園



大学ボランティアサークルによる保全作業



飼料畑への農地復旧作業

(3) 農業の有する多面的機能等への県民の理解促進

本県農業が県民の身近で営まれるメリットを生かし、子どもたちをはじめとした県民の農業への理解を図るとともに、農業者と県民とが触れ合える場所や機会の確保等に取り組む。

＜令和7年度実績＞

- ・ 県立花と緑のふれあいセンターでの「収穫体験プログラム」や「田植え・稲刈り体験」を実施（実施回数：106回、参加者数：1,461人（大人1,183人、子ども278人））
- ・ 農業農村の有する多面的機能に関する子どもたちへの理解促進活動の開催（海老名市1回、茅ヶ崎市1回、伊勢原市1回、小田原市1回）
- ・ 市民農園の開設に係る事前相談への対応



稲刈り体験の様子



農業農村の多面的機能に関する理解促進

(4) 鳥獣被害対策の推進

農作物被害を軽減し、農業生産活動を継続するために、地域ぐるみで取り組む鳥獣被害対策等を支援する。

＜令和7年度実績＞

- ・かながわ鳥獣被害対策支援センターにおいて、市町村等に対して地域ぐるみの対策のフォローアップを行うとともに、対策の普及を支援
- ・地域の鳥獣被害対策に係わる者を対象に、地域ぐるみの対策について研修を実施

○数値目標

総合的な数値目標					
項目	基準値	目標値[a]	実績値		達成率[b/a]
			前年	最新[b]	
農地面積	令和3年 18,200ha	令和14年 16,600ha	令和6年 17,800ha	令和7年 17,600ha※	106%
農業産出額 (耕種)	令和2年 512億円	令和14年 580億円	令和5年 517億円	令和6年 584億円	101%
農業産出額 (畜産)	令和2年 147億円	令和14年 147億円	令和5年 169億円	令和6年 160億円	109%

※令和7年度耕地面積は概算値であり、確定値の公表は9月予定。

施策の方向1 生産性の向上と担い手の育成・確保 ～しっかりつくる、引き継ぐ～						
項目	基準値	目標値[a]	実績値		区分	達成率 [b/a]
			前年	最新[b]		
1-①新規就農者数	令和3年度 134人/年 (直近3カ年平均)	令和14年 135人/年	令和6年 127人	令和7年 105人	単年度	78%
1-②新規参入法人 数	令和3年度 4法人/年 (直近3カ年平均)	令和14年 5法人/年	令和6年 0法人/年	令和7年 2法人/年	単年度	40%
1-③年間販売額 3,000万円以上の耕 種経営体数	令和2年 148経営体	令和14年 170経営体	-	令和7年 203経営体	累計	119%
1-④認定農業者等 への農地集積率	令和3年 21.2%	令和14年 30.0%	令和6年 25.8%	令和7年 27.3%	累計	91%
1-⑤農業生産基盤 の整備と一体とな った農地集積率	令和3年 42%	令和14年 53%	令和6年 52%	令和7年 58%	累計	109%
1-⑥スマート技術 の導入経営体数(耕 種)	令和3年 184経営体	令和14年 500経営体	令和6年 275経営体	令和7年 313経営体※	累計	63%
1-⑦スマート技術 の導入経営体数(畜 産)	令和3年 47経営体	令和14年 85経営体	令和6年 69経営体	令和7年 65経営体	累計	76%

1-⑧畜産農家が新たに 行った飼料生産基盤の強化につ ながる取組件数	-	令和14年 10件/年	令和6年 11件/年	令和7年 3件/年	単年度	30%
--	---	----------------	---------------	--------------	-----	-----

※環境モニタリング等機器、自動型・直進アシスト付機械、ドローンの導入経営体数（ドローンは作業委託者を含み、その他の機器導入との重複あり）。

施策の方向2 新鮮で安全・安心な 魅力ある農畜産物の利用拡大 ～県民にとどける、よろこばれる～						
項目	基準値	目標値[a]	実績値		区分	達成率 [b/a]
			前年	最新[b]		
2-①かながわブランドの認知度	令和3年 71.7%	令和14年 82.0%	令和6年 71.7%	令和7年 67.9%	単年度	83%
2-②農業者が生産・販売した加工品及び運営した観光農園の年間総販売金額	令和2年 42.4億円	令和14年 48.0億円	令和5年 48.0億円	令和6年 47.3億円	単年度	99%
2-③販路拡大などの成果があった畜産物のブランド数	令和3年 5件/年	令和14年 5件/年	令和6年 5件/年	令和7年 5件/年	単年度	100%

施策の方向3 環境に配慮した農業の推進と生産環境の保全 ～環境にやさしい、まもる～						
項目	基準値	目標値[a]	実績値		区分	達成率 [b/a]
			前年	最新[b]		
3-①有機農業者数	令和3年 274人	令和14年 380人	令和5年 316人	令和6年 340人	累計	89%
3-②有機農業取組面積	令和3年 200ha	令和14年 260ha	令和5年 210ha	令和6年 223ha	累計	86%
3-③県又は農地中間管理機構が直接解消した荒廃農地面積	令和3年 58ha	令和14年 100ha	令和6年 65ha	令和7年 69ha	累計	69%